

# 夢咲かせよう 立志の丘で

平成27年1月16日  
No.33

公益財団法人 産業教育振興中央会)

## 新年明けましておめでとうございます 本年もよろしくお願いたします

冬季休業が終わり、1月14日(水)から後期後半がスタートしました。改めまして、明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いたします。

冬休み中、3年生は学習相談や受検の準備等で、ほぼ毎日のように登校していました。志望校を決定するテストも終わり、今は前期選抜の生徒は出願を終え、面接練習、一般受検の生徒は最後の追い込みに入っております。

1・2年生は、年末年始明け、部活動に汗を流しました。自分たちの練習時間よりも早く学校に来て教室で学習してから部活動に励む、という部も見られました。

後期後半は、次の学年へのまとめの時期となります。秋田県学習状況調査や休み明けテストの結果を見ながら、自分の課題である箇所を克服し、万全の気持ちで新学年に進んでほしいと思います。

## 実業高校にどんな目的をもって進学するか

秋田県には、実業高校として身近なところで秋田県立大曲農業高等学校、秋田県立大曲工業高等学校があります。本校にも生徒募集の件で、これらの高等学校から担当の先生が何度も本校を訪問してくれました。

これらの実業高校を目指す生徒は、将来的に農業や工業関係に進もうとしています。各高校の担当者のお話を聞くと、高校卒業の進路として、就職、進学があるけれども、就職率はかなり高いし、進学にしても、専門学校や大学への進学も、希望すれば実現する可能性が高い、ということでした。

実業高校を卒業した教え子たちに、その後について過去に聞いたことがあります。

### ◇教え子1

実業高校卒業後、国立大学に入学し、現在県職員として働いています。

### ◇教え子2

実業高校卒業後、仙北市内の企業に就職しました。普通高校卒業の生徒と一緒に就職しましたが、実業高校卒業の方が給与が少しだけ多かったです。

教え子2の生徒は、おそらく資格等の関係があったのかもしれませんが。二人とももうすぐ不惑の歳になりますが、元気に働いています。

いずれ高校卒業、大学卒業でもその後は就職をしなければいけません。できれば、その人が望んでいる職業、興味関心が高い職業、そしてやりがいのある仕事に就いてほしいと思います。

今回は、農業をやりたくて、農業高校に進学した他県のこと例について紹介します。

(出典：『産業と教育1月号 平成27年 No.747

## 地域とともに育もう ワクワクを創造する力

Saiki Engei 佐伯 祐介

(愛媛県立丹原高等学校園芸科学科平成13年3月卒業)

### 始まりの言葉

「花作りは、人創り。」「花作りは、陰の人。」高校3年生の時に、先生にいただいた言葉です。落ち込んだ時、迷った時、いつも道を示してくれ、初心を思い出す素敵な魔法の言葉です。現在の私があるのも、この言葉に導かれ、多くの人と巡り合い、様々なシーンで活躍させてもらえたからです。現在、多肉植物の観光農園をしながら、「ワクワク、楽しい感動」を確かに感じています。

### 運命の職業―「農業」

代々農業を生業(なりわい)としてきた我が家は、祖父の頃、カンキツ、愛宕柿、ウメ、キウイフルーツなどの果樹をはじめとし、水稲、野菜なども栽培していました。

父は、施設園芸を先進的に行い、鉢花や苗もの栽培を営んできました。そんな中、私は生まれました。中学2年生になり、生徒会長に選ばれた私は、全校生徒や保護者の前で夢を語る機会に巡り合いました。その時、将来やりたいことは、農業しか出てきませんでした。

「お客様に楽しんでもらえる観光農園をやります。」

人と話すのが好きなのが理由でした。その発言を機に農業への道を模索し始めました。

まだまだ経験や知識、出会い等すべてに未熟な私。基礎から学ぶために進学しようと思い、農業を学ぶために丹原高校へ入学しました。幅広く勉強に励みましたが、農業の授業が一番好きでした。中でも、花栽培に関心をもっていました。両親が鉢花を栽培していることもありましたが、学校に行くと、花の先生がいつも声をかけてくれるのです。

「両親が立派な温室で鉢花栽培をしているのだから、それを生かせる勉強をしたらいい。高校の間、私が教える花作りを通して最高の経験を、祐介、してみんか？」そんなことを言われたのは初めてで、とても戸惑いました。しかし、熱心に私と向き合い続ける先生に、自然と惹かれていきます。それから私は、先生の元へ通いました。「花を育てるために、人を喜ばせるために、自分のために、気付き、考え、実行することから始めなさい。」先生の周りにはいつも多くの人が集まっており、特に卒業生とのつながりを、とても大切にされています。きっと皆、この言葉に種をもらい、心の中で大切に育てている人たちだと、私は感じました。冒頭の言葉もこの先生にいただきました。実家を継ぐことに迷った時期があり、浮かない顔で学校に通っていると、

「祐介。そこに綺麗に花が咲いているけど、気候、環境、手入れ、タイミングがずれるだけで、咲かなかったり、枯れてしまったりする。それを育てることは大変な労力だが、それに気付く人は案外少ないんだ。まさに、光の当たらない時間だが、そこが一番大切なんだよ。私は、光が当たらない人や事柄を、花作りを通して伝え、光が当たる手伝いをしていきたいと思う。」

そう言って冒頭の言葉をいただきました。ハッとしました。今まで学んだ農業では、直接お客様と触れ合い、楽しませる仕事ができないと思っていた私。自分の綺麗な花を咲かせるため、何をすべきか。もっと広い世界で学ぼうと、大学進学を決めました。東京農業大学では、より幅広くそして花のことを専門的に学べ、多くの友ができて、貴重な経験をたくさんすることができました。

### 多肉植物との出会い

7年前帰郷し、農業を始めた当時は、何がしたいのか定まっていませんでした。その頃、趣味で集めていた観葉植物をホームセンターに見に行くと、見たこともない植物が並んでいました。色とりどりの葉、毛が生えていたり、香りのするもの等もありました。それから、挿し木、葉挿し（はざし）で容易に増えることを知り、益々面白くなりました。世間では、寄せ植えが流行だと知り、見よう見まねで作ったところ、はまってしまいました。これなら、多くの人を楽しませることができると思い、夢中で多肉植物の栽培を始めたのです。

しかし、まだまだ多肉植物という名前が浸透していなかった当時、全然手に取ってもらえませんでした。これでは、多肉植物の面白さを知ってもらえない。私は、地域のイベントや公民館、学校に出向き、多肉植物の寄せ植え教室をさせてもらいました。自分の楽しかった体験を皆に知ってもらおう。その思いで地道に続けてきました。その結果、現在では、月に10回程定期の教室があり、農園でも連日お客様が寄せ植え体験に来られるようになったのです。現在、多肉植物を1,000㎡の温室で栽培しつつ、300㎡のガラス温室で直売、観光農園スタイルとして、寄せ植え体験教室を行っています。

### 観光農園丹原もぎたて倶楽部

私が住んでいる西条市丹原町には、丹原もぎたて倶楽部という観光農園グループがあります。昔から果樹栽培が盛んな地域で、カンキツ、イチゴ、ブルーベリー、ブドウ、イチジク、クリ、カキなど四季折々の果物が楽しめます。その地域性を生かし20年程前に8軒の農家で結成したそうです。7年前帰郷した年、この倶楽部に入会しました。昔から興味があった観光農園を知る絶好のチャンスだったからです。同世代の後継者も多いので、いい刺激になっています。最近では、「ベテランの知識と経験」を活かし、「若者のアイデアと行動力」を加えた、新たな会社を立ち上げました。地域農業のサポート組織であり、一軒の農家ではできない、加工、販売をしていく

のが狙いです。まだ、始まったばかりですが、確実にこの輪が広がっています。

### 地域農業と担い手への思い

丹原もぎたて倶楽部の活動のおかげで、母校とのつながりも深まっています。丹原高校「春の野菜苗販売」では、農作物を売って、東日本大震災へのチャリティー募金活動を行ったり、観光農園の感謝祭へボランティアとして生徒に参加してもらったりして交流を重ねてきました。その結果、高校生がインターンシップに観光農園を選んで来てくれています。「楽しい、面白い、ワクワク」することを私たちは、創造し発信してきました。それが、新たな担い手に伝えられればとインターンシップに大いに期待しています。

今後の「地域に、仕事に、生活に、ワクワク楽しい創造」を多くの人とつくり上げていきたいと思えます。

### インターンシップで先輩がやってきた

冬季休業中の12月26日、1月5～6日の3日間、角館高校2年生の本校卒業生田村俊介さんがインターンシップ(高校生の職場体験)で学校に来てくれました。

午前中は、3年生の学習相談で支援を行い、3年生に勉強を教えてくださいました。

午後からは、1・2年生の野球部の練習に参加し、8月に甲子園に行ったことや高校での練習、基礎基本について教えてくださいました。

3日目の最終日に校長室にあいさつに来て感想を述べてくれました。



「生徒だったときよりも、先生目線で生徒を見たときに、やりがいのある楽しい仕事だと思いました。先生になりたいという気持ちが強くなりました。」

田村さんは、中学校在学中、野球ではキャッチャーで全県3位、駅伝でも力走を見せ全県駅伝競走大会に出場し主力選手でした。これから、大学に進学して母校の教員として勤務できたら、素晴らしいことだと思います。3日間ありがとうございました。

◎ 平成27年 第51回大曲仙北児童生徒新年書き初め展

自由課題 銅賞 2年 伊藤朋佳 さん